

住民説明会（7月12日）におけるご説明概要

1. 将来計画について

今年は弊社臨界事故から20年になります。弊社は、事故後、主に旧加工施設の維持管理と保管廃棄物（放射性固体廃棄物）の点検・整備に取り組んでおります。

一方、放射性固体廃棄物の処理処分に関する国レベルの検討が進んでいます。このため、2012年度に弊社が管理している原子力施設の撤去、整備に関する基本計画（将来事業計画）を策定し、順次進めて参りました。

今後も同計画に沿った活動を行なって参ります。

2. 2019年度年間事業計画について

弊社の将来事業計画を踏まえ、本年度は主に以下の事業を計画しております。

① 保管廃棄物の管理、施設の保守管理

例年通り、保管廃棄物の管理、施設の保守管理を安全最優先で行ないます。

② 保管溶媒焼却の処理

引き続き、保管溶媒焼却の安全な処理を継続します。

③ 第1管理棟、第2管理棟の旧加工設備の撤去

第1管理棟、第2管理棟の旧加工設備撤去工事を継続します。

④ ウラン回収処理海外委託（搬出・輸送）

2016年より、ウラン回収処理が可能であることが判明したウランを含む残渣（ウラン残渣）及びウランが付着している金属（ウラン付着金属）について、海外でウラン回収処理を行なっております。本年もこのウラン回収処理のための搬出・輸送を継続します。

⑤ 住友金属鉱山(株)技術センターの管理区域施設の譲り受け

技術センターの廃止措置認可手続きを経て、2019年4月17日付で、弊社敷地内の住友金属鉱山(株)技術センターの管理区域施設（第5管理棟）を当社が譲り受けました。

⑥ 2020年度以降に予定の焼却設備解体、第1管理棟の非管理区域化に係る準備

溶媒焼却が予定通りに終了した後の設備解体ならびに設備を設置していた第1管理棟の非管理区域化工事の準備を進めます。

3. 焼却設備の運転状況について

2015年に開始いたしました保管溶媒の焼却は順調に進捗しており、2019年5月末時点で全体の9割弱の焼却が完了しております。焼却による排気、排水への放射性物質の影響はありません。運転状況や、放射性物質の排出がないことにつきましては、近隣住民の皆様のご協力をいただき、第三者会議、線量調査会など社外の方々に定期的にご確認いただいております。

今後も安全を最優先に保管溶媒の焼却運転を継続して参ります。

以上